

太陽となろう へき地教師の歌 (沖縄バージョン)	作詞 新渡戸 常晴 作曲 石山 美治	一、 山間の 小さな学校 青空と花とみどりがある つぶらな ひとみの子らが 力いっぱい 伸びている 教師よ 教師よ 太陽となって あすひらく知恵を育てよう	二、 海への 小さな学校 潮風と波と光がある 明るい心の 子らが 力いっぱい 伸びている 教師よ 教師よ 太陽となって あす築く意志を育てよう	三、 おきなわの 小さな学校 美ら島の心と文化がある 世界に羽ばたく子らが 力いっぱい 伸びている 教師よ 教師よ 太陽となって あすつくる夢を育てよう
--------------------------------	-----------------------	---	---	--

この歌は、10月24、25日に、沖縄県の宮古島で開催された第70回九州地区へき地・小規模校教育研究大会 沖縄大会の開会行事の中で、国歌斉唱に続き、全体合唱として歌われた「太陽となろう へき地教師の歌（沖縄バージョン）」です。初めて耳にする歌でしたが、どこか懐かしく、心が温まるメロディーでした。「教師よ」とありますが「ともよ」と歌われていたことから、場所は違えど、目の前の子供たちのためにともに頑張ろうという温かいメッセージが込められているようにも感じました。歌詞の3番に沖縄らしさも盛り込まれており、会場を多く埋めた沖縄県の先生方の歌声とともに先生方同士の絆や思いを感じた印象的な瞬間でした。

沖縄県の宮古島で初めて開催された九州大会は、昨年度の熊本大会に引き続き、ハイブリッド形式で開催されました。参加者は約170名、教育関係者等約50名の計約220名が集い、九州地区のへき地教育の成果や課題について研究協議を深め、へき地教育の充実に向けて取組を共有することができました。

初日は開会行事の後、市内6小・中学校で学校別分科会があり、担当教諭たちが宮古島ならではの地域の特徴を生かして取り組んだ公開授業や研究発表を行いました。2日目は課題別分散会が行われ、九州各地の地域性を生かした研究成果が共有されました。

私は、2日目の課題別分散会で、鹿児島県知名町立知名小学校と沖縄県国頭町立安田小学校の実践発表をお聴きする機会がありました。その発表校の一つ、知名小学校の発表に、私はとても考えさせられました。離島に住む知名小学校の約8割の子供たちが、進学や就職で「島立ち」の時を迎えるというのです。もっと分かりやすく言えば、島に残るか、離れるか、早い段階で人生の選択を迫られるのです。その時の自分自身を支える力を「生きる力」と表現され、この生きる力を育てる基盤が、ふるさとへの誇りだと言われていました。知名小学校の先生の御発表の中で、「ふるさとを思うとき、私たちは懐かしさとともに、心が優しくなります。勇気が湧いてきます。人に優しく、自分に負けない、そんな生きる力を備えた子供を、知名の人材と素材を生かし、子供たちに知名のよさを実感させながら育てていきたい。」という言葉がありました。目の前の子供一人一人を思い、これからの未来を力強く生き抜く力を身に付けさせたいという覚悟が伝わってくる素晴らしい御発表でした。私は子供たちのことをそこまで考えて関わってきたかどうか反省されました。

「へき地に教育の原点あり」と言われます。「僻地」ではなく「碧地」と書くこともあると聞きます。どちらもへき地校に勤務した経験のない私にとっては、実感のない言葉です。しかし、今大会で宮古島の子供たちの様子を参観し、九州各県の実践発表をお聴きするうちに、どの学校も一人一人の子供を大切に、学校だけでなく家庭・地域と連携して、その地域ならではの自然や伝統などの素晴らしさを生かしながら、子供たちの人間性や生きる力を育もうとされていることがよく分かりました。私が身をもって経験したことのない言葉もおぼろげながら少し理解できた気がします。教育行政の立場として、微力ながら本県のへき地・小規模校教育の更なる発展に努めていきたい、そんな思いを強くした宮古島での学びでした。